

❀ 平城宮跡第一次大極殿復原工事

第一次大極殿正殿復原工事は、2001年度までに、大極殿基壇基礎造成(1,795 m²)、木材の調達、基壇化粧石材の調達、工事用地の仮設盛土(53,150 m²)、仮囲いおよび進入口の設置、木材保管庫(1,505 m²)・木材加工場(1,505 m²)・加工原寸場(2,005 m²)・一般公開施設(720 m²)などの仮設物の建設等が発注されています。

大極殿基壇は鉄筋コンクリート 躯体に凝灰岩切石の貼り付けを行うもので、平城宮跡でも出土している兵庫県高砂市宝殿産の黄色凝灰岩「黄竜山石」^{キタツヤマシ}を使用します。また、基壇基礎に使用するコンクリートは、乾燥収縮低減剤を添加した通称「五百年コンクリート」を使用しています。

2002年度は、大極殿基壇基礎内に免震装置の設置工事および木材調達、柱礎石の据え付けなどが契約されており、近く素屋根建設工事の発注が予定されています。また、9月から、基壇の化粧石材の加工貼り付けが始まりました。

(平城宮跡発掘調査部 渡邊康史)



大極殿基壇の地覆石